

# 日本語の説明文と専門文献における 手がかり語の特徴に関する研究

山元啓史

## 1. 本論の目的

本論の目的は、日本語教育において語彙を「内容に関する語彙（以下：内容語彙）」「談話に関する語彙（以下：談話語彙）」「一般的な語彙（以下：一般語彙）」に分類する上で(1)日本語学習辞典・用語集・専門辞典における定義、見出し語としての採用基準を比較検討すること、(2)一般的な説明文および専門文献における語彙を読み手がどのように見ているか、読み手の立場からの見方を調査すること、(3)辞書・辞典・用語集における基準と読み手の見方を比較検討すること、(4)読み手の見方から談話に関係する語彙の日本語教育における取り扱いを検討すること、の以上4点である。

## 2. 談話に関する語彙の概念規定

山元(1992)では、signaling(文章の内容構造を明示する手がかり語)が文章理解、とりわけ構造的把握にもたらす影響について研究し、専門文献読解の教育的視点を提供した。文章理解研究において談話構造把握の言語的手がかり(Groz et al. 1989)である signaling や cue words, discourse marker は良く研究されており、学習指導の示唆になることが多い。また、先行オーガナイザーによる文章統合化促進の効果(Mayer & Bromage, 1980)、文章タイトルを提示することによる文章の保持の促進(Dooling & Lachman, 1971)、説明文の読解に及ぼす視点の効果(内田, 1981)、文章に関する質問作りが文章理解に及ぼす影響(秋田 1988)や明示的視点表現とそれを含む文章における理解特性の研究(福田 1990)など、読み手の理解と文章構造の特性を論じた研究は多い。

一方、言語学の領域では談話の捉え方は様々である。心理学に比べるとかな

り古くから始められている。遡れば昭和10年(1935年)文学作品を中心とする文体の研究がその濫觴であるようだ<sup>1)</sup>。discourse analysisに相当する呼称は「文章論」「談話」と大きく2つの呼ばれ方をしているが、前者は文体論研究の経緯をもち、一方後者は音声談話の研究を指すために談話分析とよび、書記談話の研究を指すためにはテキスト言語学という用語を用いる研究者もいる。言語学での定義としてロングマンの応用言語学辞典では「談話」とは「言語使用、つまり伝達行為の結果として産み出された言語の実例を現す一般的用語」とあり、「談話」は節、句、文の文法分析に対して、「パラグラフ、会話、対談などのより大きい単位を指す」と述べられている。また、日本文法辞典によると「文章」は「文がいくつか集まってそれ自体で完結し、全体でひとまとまりのものとして統一のある思想・内容を表しているものを『文章』と呼ぶ」と定義されている。

では、現実談話研究ではどのような分析がその課題とされているのであろうか。ロングマンの応用言語学辞典では次の3タイプをあげている。①冠詞や代名詞や時制の選択が談話の構造にどのような影響を与えるか(address from, cohesion)、②談話における発話間、あるいは文間の関係(adjacency pair, coherence)、③新しい話題を導入したり、話題を変えたり、他の関与者に対してより高い役割関係を主張するために話し手が行なう展開、などである。これらのことから、談話全体、文章全体の構成として文、パラグラフ、文章の各段階とのつながりを構造的にあるいは意味的に分析している研究は必ずしも多くはないのではなかろうか。真田(1989)は「いわゆる言語学の他の分野(音韻論や文法論)にくらべて、その進展のスピードが遅かったことが指摘され」、「日本語を対象とした研究を見てもその研究が本格的になってきたのは比較的近年のことであり」、「今後開拓すべき課題が横たわっている」ことを指摘している。

さて、問題の解決であるが、現実外国語としての読解教育において取り扱えるのは、具体的な個々の語彙である以上、語彙に対する分析は重要である。一方、語彙の意味内容をどのように構成し、どの知識を利用するかは読み手の処理方法であり、その分析検討も重要である。加えて教育としての問題はこの両者によって行われる活動をどのように支援するかということであろう。

教育の立場からすると、具体的にあるまとまった談話を習得させるためには、語彙を教えることは必至である。しかしながら、語彙とは個々の語の意味が単純に累積して存在しているのではなかろう。文章となったときに語彙はあるま

とまりのある概念（野球の試合を報じたもの、事件を報じたもの、かなりパーソナルな出来事を述べたもの、など）を伝達することができる。ならば、語彙は使われるべき領域においてトピックに依存しないまとまった集団を構成するのであるか。また、それは人間の情報処理において、どのようなまとまりの強さ、形状、ルールを持っているのであろうか。

本研究では「談話」が語と語の結び付きにおいて、「伝達行為の結果として産み出された言語の実例」とするなら、一連の並びの語を一つずつ切り出し、それぞれの元の文章におけるトピックとの関係の度を被験者が判定することによって、「トピックにかかわる語（以下、内容語彙）」、「トピックの如何にかかわらず使われる語（以下、一般語彙）」を抽出することを試みる。また、「トピックに直接かかわるものではないが、そのトピックが語られる際、よく見られる語」という判定基準に設けることによって「談話の特徴を表わす語彙（以下、談話語彙）」が抽出できると考える。

### 3. 調査の目的

語彙を「内容語彙」「一般語彙」そして「談話語彙」の三種に分類し、それぞれの言語学での分類、定義と実際に読み手が持っている語彙の感覚との関係をあきらかにすることが目的である。そのために①一般的日本語教育の語彙のとらえ方（一般日本語教育の視点）②留学生のための専門用語集（専門的内容および日本語教育の視点）③専門用語辞典（専門的内容の視点）の3つの視点から以下の辞典において、どのような基準で見出し語の選定を行っているのかを調査した。

「岩波情報科学辞典」岩波書店

「留学生のための基礎日本語科学用語」凡人社

「日本語教育基本語彙六種比較対照表」国立国語研究所日本語教育センター  
第一研究室

各種辞典における見出し語のとり扱われ方は以下のとおりである。

「岩波情報科学事典」……『本辞典では、情報科学という専門分野を、基礎、ハードウェア、ソフトウェア、知識システム、情報と社会、の5

つの大分野に分け、それぞれを順次細分していくという形で20個の分野を定め、用語の採取を行なった。次に、このようにして採取された約15,000語の用語を用語の木に作り上げ、そこから一定レベル以上の用語を情報科学における基本用語としてとり、そのあと、残された用語の木の中から良く用いられる重要な語を採取するという方法で約4,500語の用語を見出し語すなわち項目語として決定した。(長尾 1990, pp. 5-6)』

「留学生のための基礎日本語科学用語」……『本書で採り上げた科学・技術用語は、大学の一般教育課程のレベルのものに留めてあり、特定の専門分野の高度な技術用語は除外してある。それよりも本書では、留学生や研究者の日常生活においてはもちろん、自然科学を専攻する留学生や研究者のみでなく、社会科学や人文科学を専攻する留学生や研究者にも役立つように、広い範囲の基礎的な用語を取り上げるように留意した。』

「日本語教育基本語彙六種 比較対照表」

1. 「日本語基本語彙」(岡本, 1944) ……外国人に現代日本語を習得させることを目的として学習上の便宜として、第一次の基礎となる語彙
2. 「日本語教育における基礎学習語」(加藤, 1963, 1964) ……如何なる目標を以て日本語を学習するにしても、一応は通るべき基礎的な学習語を、第一次、第二次に分けて選定
3. A Classified List of Basic Japanese, Vocabulary (Neustupny, 1977) ……入門期における日本語教育の基本的な語彙として選定
4. 「外国人のための基本語用例辞典」(文化庁国語課, 1971, 1975) ……日本語の中で特に基本的と思われる語を中心として、外国人留学生の日本語学習の効果を高め、かつ教師が学生指導に当って充分利用できるように選定
5. 「日本語教育基本語彙第一次集計資料2000語」(国立国語研究所, 1978) ……留学生等外国人の日本語学習者が専門領域の研究または職業訓練に入る基礎としてはじめに学習しておくべき、日本語の一般的・基本的語彙について、妥当な標準を得るための基礎資料として作成。

6. 「留学生教育のための基本語彙表」(樺島・吉田, 1971) ……外国人留学生が日本の大学教育を受講するまでに習得しておくべき最小限度の基本的な語彙の提示

以上のように日本語教育の観点から、「専門用語」と「一般語彙」の線引きは各辞典の編集方針によって概念的には規定できよう。専門用語としては「○科学における基本用語」「特定の専門分野の基本用語」というようにある領域に依存する基本的な語彙を、学習すべき一般語彙としては「日本語学習の基礎」「日本語教育の基本的な語彙」というように学習の基礎・基本の語彙を掲げている。一方、この中間点である「テキストが論文として認知できる要因をになう語彙」、つまり、談話の特徴をになう語彙はあまり明確にされない。談話研究が「語彙(含む単語)」だけで考えられてきたのではなく、個々に孤立した範囲をこえて、相互に関連性のある整合的な言語的コミュニケーションの基本単位(天満1989)として研究されてきているためと思われる(図1)。

しかしながら、抽象的な談話の教育という働きかけでなく、語彙という具体的なリストで示すことによって、談話に関する語彙の枠組みを積極的に読解の教育に取り込むことができるのではなかろうか。

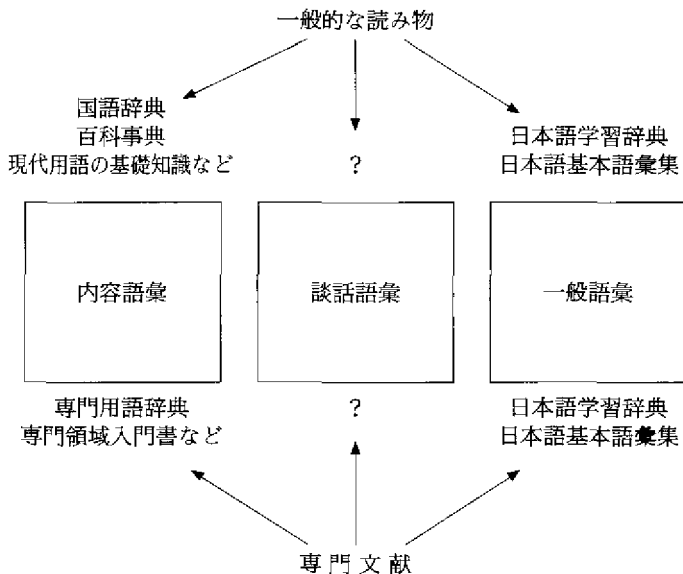


図1 談話は何をよりどころに調べられるのか?

本調査では単なる語彙の分類でなく、①読み手の語彙の認識の実体はどうか、②語彙教育の枠組として「談話語彙」を概念規定するとどのような特質であるのかを調べる。

## 4. 方 法

### 4.1 材 料

実験材料として一般的読み物としての説明文と専門的内容を持つ論文の2つを用意した。理由は扱われる内容の一般性・専門性のちがいが「談話語彙」の

表2 実験で使われた説明文の原文(英語のものを山元が日本語に翻訳)

---

#### 『スーパータンカー難破による環境破壊と安全運航の確保』

スーパータンカーの難破による被害が問題である。典型的なスーパータンカーは50万トンの原油を運び、その大きさはフットボールスタジアム5個分におよぶ。スーパータンカーが難破すると、原油が海に流出する。この原油が動物、鳥、微生物の生命を脅かす。たとえばスーパータンカーがイギリス沿岸で難破した時、20万をこえる海鳥が海岸に打ち寄せられた。流出した原油はまた、海の生き物の餌となり、そして世界の酸素の70%を供給している微生物の生命を脅かす。

難破のほとんどは嵐などの緊急事態を処理するだけのパワーと舵取装置が不足していることが原因となっている。スーパータンカーは動力をつくるためのボイラーを1つしかもっておらず、また船を動かすためのスクリューも1つしかもっていない。

この問題の解決策は、海で使われているタンカーを今すぐ止めることではない。なぜなら世界の原油供給の約80%は、スーパータンカーによって運搬されているからである。そのかわりに、安全運航のための解決策はスーパータンカーの航海士を訓練したり、よりよいタンカーを造船したり、沿岸でタンカーを誘導する地上管制ステーションを配備することに求めるべきである。第1に、スーパータンカーの航海士は自分達の船の操縦法について、最高の訓練を受けなければならない。第2にスーパータンカーは、特別な操縦のために複数のスクリューと、緊急動力のために予備のボイラーをもつものが、造船されるべきである。第3に、スーパータンカーが海岸に接近する場所に、地上管制ステーションが配備されるべきである。これらのステーションは、混乱した海域や海峡の通過を誘導して、飛行機の管制タワーのような働きをするだろう。

マリタイム研究センターでは上記機構を採用したスーパータンカーの開発に着手し、その第一号が間もなくドックを出る。また、従来のスーパータンカーの運航状況によると過去数度におよぶ事故区域であるマカヤ半島に地上管制ステーションを設置し、安全運航の確保のための改善策を実施した結果、現在のところ事故は起こっていない。また、航海士らへのインタビューでは航海士の89%が同半島近辺の運航に際し、心理的不安が減ったと答えている。

抽出に影響があらわれるか否かを見るため。本実験では、語彙のとらえ方を観察するため、2つの文章の構造的異なりが、その実験結果にあらわれぬよう、各文の段落は内容的に「問題」「目的(原因)」「方法」「結果」のストーリーにそろえ、さらに長い「方法」は第1(①)、第2(②)、第3(③)のように方法の個数も同じになるよう配慮した。具体的には、説明文は「スーパータンカーが引き起こす問題の解決」(表2)、専門文献は「機械翻訳向け前編集のための日本語係り受け構造の曖昧性検出方式」(表3)の抄録。2つのテキストを材料とする。説明文はMeyer, Brandt & Bluth (1980)の実験において使用されたもの(原典は中学校3年生の教科書)を筆者が日本語に翻訳した。専門文献は「情報処理学会論文誌」(平井, 梶, 芦著, Oct. Vol.31 No.10. 1990)の抄録を利用した。これらの2種のテキストを語彙に分割し、専門文より抽出された語彙リストを「語彙の調査A」(79単位の内「悪影響を及ぼす」のみ「及ぼす」だけではその意味がはっきりしないため2文節を1単位とした)、説明文より抽出された語彙リストを「語彙の調査B」(95単位)として被験者に与

表3 実験で使われた専門文献の原文(「情報処理学会論文誌」平井, 梶, 芦著, Oct. Vol.31 No.10. 1990)

---

「機械翻訳における日本語係り受け構造の曖昧性検出方式」

機械翻訳用の前編集の作業効率を高めるために、原文中に存在する形態素、係り受け構造等の曖昧性を検出する機能が求められている。必要以上の多量の曖昧性の検出は、かえって前編集の作業効率に悪影響を及ぼすという問題点がある。

そのため、曖昧性検出においては、検出すべき曖昧性の検出の漏れを抑えながら、不要な曖昧性検出(前編集しなくても機械翻訳システムが正しく解釈する箇所に関する曖昧性検出)を少なくすることが重要な課題となる。

本論文では、日本語の曖昧性検出のうちで重要な係り受け構造の曖昧性検出について、この課題の解決手法として、①機械翻訳システムと同一の解析を行って機械翻訳システムの採用する係り受け構造の最優先解を求め、これに対して係り受けの非交差性条件と格の非重複条件を満たす範囲に別解の検出を抑える、②係り受けの飛び越しを抑制する傾向のある読点や語句を利用して、不要な別解の検出原因となる範囲を別解探索範囲から除く、③語句ごとの固有の構文的性質を利用して不要な別解の検出を制限する、3点を特徴とした今までにない新しい曖昧性検出方式を提案している。

この結果、本方式は、必要な曖昧性検出の漏れを実用上問題ない量に抑えながら、不要な曖昧性検出を、可能な構文構造をすべて検出する従来方式の1/2未満に削減でき、上記課題を解決できることが確認できた。

え、「内容語彙（専門の内容やトピックを直接関係している語彙）」「談話語彙（専門の内容やトピックとは直接関係はしないがその話題の展開に関係している語彙）」を選ばせ、それぞれ被験者間での一致率を見た。

## 4.2 対 象

N大学大学院生。説明文の語彙判定者は39名、専門文献の語彙判定者は41名。選定の理由としては論文読解を日常的に行っており、判定者集団を規定する上で、専門家集団と一般集団との中間層であるとみなしたため。

## 4.3 手 続 き

専門文献「語彙の調査A」では「次の語句を見て、『機械翻訳』に関するような専門用語と思われる語句には○、専門用語に限らないが、論文に出てくるような語句と思われるものには×、それ以外には何もつけないでください」、説明文「語彙の調査B」では「次の語句を見て、『海の環境破壊』に関すると思われる語句には○、『海の環境破壊』に限らないが、報道文・説明文に出てくるような語句と思われるものには×、それ以外には何もつけないでください」とした上で、できるだけ速くつけるよう教示した。

## 5. 結 果

### 5.1 説明文における結果

本来異なる種類のテキストを単位分けし、それに基づいて内容語彙、談話語彙を判断したものであるから、説明文、専門文献の直接的な比較はできない。

説明文「語彙の調査B」にも「問題、原因、解決、結果」などの語彙が調査の対象として含まれているが、いずれも50%を切っている。「ついて」「およぶ」「際し」「よる」など助詞相当語彙や文型という性質のものが上位にきている。

内容語彙、談話語彙、一般語彙のそれぞれに対し、百分率の差の検定を実施した結果、内容語彙については10語、談話語彙については4語が5%の有意差で、他の語彙よりもその性格が異なることが明らかになった。

### 5.2 専門文献における結果

専門文献の内容語彙はほぼ「情報科学辞典」の見出し語と一致する。しかしながら、非交差性条件や非重複条件などその論文内で新出する概念、定義されている



表4 説明文における内容語彙と談話語彙の判断

	説明文		n=39	
	内容語彙	(%)	談話語彙	(%)
1 原油		92.3	ついて	71.8
2 流出する		89.7	着手する	61.5
3 難破		79.5	およぶ	61.5
4 スーパータンカー		71.8	際し	61.5
5 被害		66.7	求める	59.0
6 微生物		64.1	よる	56.4
7 生命		61.5	なぜなら	56.4
8 脅かす		61.5	むしろ	56.4
9 事故		61.5	べき	51.3
10 鳥		59.0		
11 海		51.3		

内容語彙、談話語彙ともに50%以上を列挙。

表5 内容語彙、談話語彙、一般語彙の割合と差の検定一覧 説明文 (%)

No.	内容語彙 of cont (A)	談話語彙 of dis (B)	一般語彙 of gen (C)	C-A	C-B	B-A
原油	<u>92.31</u>	2.56	5.13	-87.18*	2.56	-89.74*
流出する	<u>89.74</u>	7.69	2.56	-87.18*	-5.13	-82.05*
難破	<u>79.49</u>	12.82	7.69	-71.79*	-5.13	-66.67*
スーパータンカー	<u>71.79</u>	7.69	20.51	-51.28*	12.82	-64.10*
被害	<u>66.67</u>	30.77	2.56	-64.10*	-28.21*	-35.90*
微生物	<u>64.10</u>	7.69	28.21	-35.90*	20.51*	-56.41*
事故	<u>61.54</u>	12.82	25.64	-35.90*	12.82	-48.72*
生命	<u>61.54</u>	10.26	28.21	-33.33*	17.95*	-51.28*
脅かす	<u>61.54</u>	20.51	17.95	-43.59*	-2.56	-41.03*
鳥	<u>58.97</u>	7.69	33.33	-25.64*	25.64*	-51.28*
ついて	<u>0.00</u>	<u>71.79</u>	28.21	28.21*	-43.59*	71.79*
着手する	<u>5.13</u>	<u>61.54</u>	33.33	28.21*	-28.21*	56.41*
およぶ	<u>10.26</u>	<u>61.54</u>	28.21	17.95*	-33.33*	51.28*
際し、	<u>2.56</u>	<u>61.54</u>	35.90	33.33*	-25.64*	58.97*

\*p<.05 cont=内容語彙 (content) dis=談話語彙 (discourse) gen=一般語彙 (general)

表6 専門文献における内容語彙と談話語彙の判断

	専門文献		n=41	
	内容語彙	(%)	談話語彙	(%)
1	機械翻訳	85.4	本論文	85.4
2	係り受け構造	85.4	原文中	78.1
3	構文的性質	85.4	課題	70.7
4	形態素	82.9	問題点	63.4
5	非重複条件	82.9	結果	58.5
6	非交差性条件	80.5	関する	56.1
7	最優先解	78.1	解決手法	56.1
8	構文構造	78.1	解釈する	53.7
9	前編集	63.4	傾向	53.7
10	システム	53.7	原因	51.2
11	解析	53.7	本方式	51.2
12			上記	51.2

内容語彙、談話語彙ともに50%以上を列挙。

表7 思考運用のための用語（林1971）<sup>(1)</sup>

## (2)思考運用のための用語

<名詞1> 点, 場合, 事実, 意味, 立場, 方法, 条件, 問題, 課題, 話題, 関係, 内容, 材料, 資料, 目的, 目標, ねらい, 方針, 原因, 結果, 理由, 結論, 状態, 背景, 影響, 意見, 意向, 考え, 感じ, 見方, 考え方, 心, 気持ち, 関心, 時間, 時期, 機会, チャンス, 場所, 事件, 事情, 傾向, 方向, 効果, 場, 規定, 制度, 政策, 対策, 働き, 能力, 可能性, 性格, 利益, 次第, 途中, 資格, 価格

<名詞2> 前, 後, のち, 先, 前後, 現在, 将来, 過去, 今, 同時, 最初, 最後, うえ, 下, なか, 内, 中央, 左, 裏, 幅, 高さ, 横, 差, 数, 別, 次, 計, 反対, 同様, 直接

<名詞4> 一般, 普通, 特別, 高級, 最高, 最低, 最大,

<名詞5> 全体, 全部, 全員, 総額, みんな, 部分, 後半, 個人, 多数

<名詞6> 自分, 相手, 彼, あなた

<連体詞> 約, 同, 各, 全, いわゆる, あらゆる

<動詞> 思う, 考える, 知る, わかる, できる, 認める, 決める, もつ

<副詞1> 最も, もっと, 特に, 非常に, きわめて, とても十分, 一切, かなり, やや, 多少, 少し, ほぼ, いろいろ, 多く, 明らかに, 強く, 当然, 一応, つい, なかなか, わずか, いずれも

<副詞2> 初めて, はじめ, 再び, 今度, 今回, 当時, 従来, このほど, 早く, まづまづ

表8 内容語彙, 談話語彙, 一般語彙の割合と差の検定一覧 専門文献 (%)

No.	内容語彙 %of cont(A)	談話語彙 %of dis (B)	一般語彙 %of gen (C)	C-A	C-B	B-A
機械翻訳	<u>85.37</u>	7.32	7.32	-78.05*	0.00	-78.05*
係り受け構造	<u>85.37</u>	2.44	12.20	-73.17*	9.76	-82.93*
構文的性質	<u>85.37</u>	7.32	7.32	-78.05*	0.00	-78.05*
非交差性条件	<u>80.49</u>	7.32	12.20	-68.29*	4.88	-73.17*
非重複条件	<u>82.93</u>	7.32	9.76	-73.17*	2.44	-75.61*
形態素	<u>82.93</u>	0.00	17.07	-65.85*	17.07*	-82.93*
構文構造	<u>78.05</u>	7.32	14.63	-63.41*	7.32	-70.73*
最優先解	<u>78.05</u>	7.32	14.63	-63.41*	7.32	-70.73*
前編集	<u>63.41</u>	7.32	29.27	-34.15*	21.95*	-56.10*
システム	<u>53.66</u>	17.07	29.27	-24.39*	12.20	-36.59*
解析	<u>53.66</u>	29.27	17.07	-36.59*	-12.20	-24.39*
本論文	9.76	<u>85.37</u>	4.88	-4.88	-80.49*	75.61*
原文中	17.07	<u>78.05</u>	4.88	-12.20	-73.17*	60.98*
この課題	0.00	<u>70.73</u>	29.27	29.27*	-41.46*	70.73*
問題点	0.00	<u>63.41</u>	36.59	36.59*	-26.83*	63.41*
結果	0.00	<u>58.54</u>	41.46	41.46*	-17.07	58.54*
解決手法	34.15	<u>56.10</u>	9.76	-24.39*	-46.34*	21.95*
解釈する	14.63	<u>53.66</u>	31.71	17.07	-21.95*	39.02*
本方式	26.83	<u>51.22</u>	21.95	-4.88	-29.27*	24.39*

\*p < 05 cont=内容語彙 (content) dis=談話語彙 (discourse) gen=一般語彙 (general)

語については当然ながら, 上記辞典にも出現しない。これら語彙はおもしろいことに林(1971)の分類でいう「思考運用のための用語」に相当する語彙が談話語彙の上位を占めている。

専門文献の方も同じく内容語彙, 談話語彙, 一般語彙について百分率の差の検定を行った。5%の有意差のある内容語彙として, 11語が抽出できた。また, 談話語彙としては説明文の4語に比べて倍の8語が抽出できた。説明文にも「問題, 原因, 解決, 結果」などの「思考運用のための用語」が含まれているのであるが, 談話語彙として有意な差が見られなかった。8語を見ると「本論文」と「原文中」以外はすべて「思考運用のための用語」に含まれている。説明文は専門文献ほど「思考運用型」の談話という認識が強くないのであろう。

## 6. 考察とまとめ

談話語彙というものは語彙という独立したジャンルで規定できるものではなく、「説明文の談話語彙」、「情報科学の談話語彙」というように限定することが条件となる。このことは同じ内容構造を持つ2つの文章であっても、談話語彙として両文章共通に含まれる「問題」「目的」「解決法(手法)」「結果」という語彙は必ずしも談話語彙として選ばれていないことからわかる。こうした談話語彙は説明文でははっきりした傾向は見いだせない(5%有意で4語抽出)が、専門文献では林(1971)のいう「思考運用」の語彙がその多くを占めている。談話の認知の側面から論文の談話語彙とは「思考運用型」の語彙が多く、教師は専門文献の談話語彙として表れた語彙を単なる名詞とか動詞としてでなく、「思考運用型」語彙ということ意識して授業や教材を計画すると良いだろう。しかし、「思考運用型」とはいつでも数と組み合わせによっては、談話の意図や展開の規則性を特定するには不十分であろう。また談話の実践的な教育としては辞典などの項目にただ「論文などで使われる語彙」と記述するだけでは教育的な効果は期待できないであろう。それらの談話語彙がどういう運用上の特性を持っているのか、どういう領域で使われるのかを明らかにすることにより、具体的な授業の計画や教材の開発に役立つことであろう。

辻井(1987)は機械翻訳の立場から専門文献翻訳について翻訳対象分野を科学技術論文の抄録に限定したとしても、このような専門分野の体系から直接意味が与えられる単語だけが現れるわけではないことを指摘し、実際には「いわゆる日常語も頻繁に現れる(例えば、'to introduce', 'to develop', 'advantage', 'fields' といった日常語が指す概念)がそれらに明示的な定義を与えることは、非常に困難である」と述べている。つまり、言語教育で考えるなら、専門用語集の教育では専門文献の教育はできず、それらに伴っている「専門文献談話」の概念とその応用を教育で展開しなければならないわけである。その際、専門用語は専門辞書を調べればその項目はわかるが、「専門文献談話」の学習はいかなる手段をとればよいかは本論の問題点として述べた。

辻井はさらに「これらの単語については、それが指示する概念があるというよりも、それらの単語の用例があるだけであり、単語が指示する『個別言語に依存しない』概念が何であるかは、個々の単語の用例から推察しなければならない」と述べ、意味の多さ、文脈によってその意味が変わることによって一律に機械で処理できないことを指摘している。しかしながら、推察作業は機械が

苦手とするところであったとしても、人間による推論において非力であるというわけではない。世界知識を持つ人間にとってはその知識の支援により概念の形成あるいは内容の再構成のための手がかりになる可能性があると考ええる。

また、専門文献は説明文より定型性が高いということがこのデータからも検証された。

物語が定型的であるということでは「規範的な (canonical) 物語の書式を反映していすぎては、大人の読者はむしろうんざりさせる傾向があり (Green 1986)」, むしろ意外性や新奇性が物語の面白みを出すのであるが、論文など書かれた内容を厳格に伝達しなければならない文章では定型性はその機能を持つのであろう。それは決定的な要素を省略したり、構成部分の順序を換えたりすると、理解したり覚えたりするのが難しくなること (Thorndyke 1977) からわかる。本研究では、具体的なデータによる談話語彙のカテゴリによって、その定型性を示した。今後は読解支援のアプローチとして展開するためにさらにくわしいデータによる教育方法の開発を実践していく必要があろう。

#### 引用・参考文献

- 秋田喜代美 1988 質問作りが説明文の理解に及ぼす影響. 教育心理学研究, 36, 4, pp. 307-315
- Doolling, D J & Lachman, R. 1971 Effects of comprehension on retention of prose. *Journal of Experimental Psychology*, 88, pp. 216-222.
- 福田由紀 1990 明示的視点表現を含む物語の理解と視点操作能力との関係, 教育心理学研究, 38, 1, pp. 26-35.
- Greene, Judith 1986 *Language Understanding: A Cognitive Approach: Open Guides to Psychology*, pp. 93-94, Open University Press. (認知心理研究会訳: 海文堂)
- Groz, J. B et al. 1989 *Foundation of Cognitive Science*, (ed. Michel I. Posner) (邦訳『言語への認知的接近』認知科学の基礎②, 佐伯胖, 土屋俊監訳, 第3章「談話」頁113-152, 片桐恭弘訳, 産業図書)
- 林四郎 1971 「語彙調査と基本語彙」(『電子計算機による国語研究Ⅲ』国立国語研究所報告39) 集英出版
- Mayer, R. E. and Bromage, B. K. 1980 Different recall protocols for technical texts due to advance organizers., *Journal of Educational Psychology*, 72, pp. 209-225
- Meyer, B. J. F. 1975 *The organization of prose and its effects on memory.*, Amsterdam · North-Holland
- 真田真治 1989 「日本語のバリエーション 現代語・歴史・地理」アルク, p. 124

- 天満美智子 1989 『英文読解のストラテジー』, 大修館書店,  
寺村秀夫他編 1990 『ケーススタディ日本語の文章・談話』, 桜風社  
Thorndyke, P. W. 1977 Cognitive structures in comprehension and memory of narrative discourse. *Cognitive Psychology*, 9, pp. 77-110.  
辻井潤一 1987 機械翻訳と理解, 心理学評論, 心理学評論刊行会, Vol.30, No.3, pp. 213-230  
内田伸子 1981 説明文の記憶と理解に及ぼす視点の効果. 読書科学, 25, pp. 45-58.  
山元啓史 1992 日本語科学技術文献読解における読解ストラテジーに関する研究(3) —専門文献読解における signaling の効果—, 科教研報 Vol.6, No.6, pp.11-16.

## 注

- (1) 前田富棋 1981 日本文法辞典, 北原保雄他編, 有精堂  
(2) 林(1971)はこの他に(1)辞に連続する詞,(3)事象認知のための用語,(4)話題の題目用語がある。分析は新聞素材を利用した。林の論文「基本語彙は決められるか」では,以上の4カテゴリより構成される語彙545語を将来の基本語彙として系統化している。このような分類は基本6種に上げる研究では見られない。